

# 大平哲 准教授

専門：開発経済学、地域経済学

(インタビュアー：三須・菊井)

『途上国の問題を解決する方法を探る、それが“開発経済学”!!!』

## Q. 大平先生の専門とされている研究内容はなんですか？

一言でいうと、開発経済学ですね。開発経済学というのは、わかりやすく言えば、途上国、つまりは経済的に貧しいと言われている国々の経済をこれからどのようにするかを考える分野です。30年前は開発経済学というのはマクロでの経済開発の話でしたが、最近では実際に小さな村々で貧困にあえいでいる人々をどれくらい少なくできるかというのを、経済学的手法を用いながら分析する分野というのが開発経済学の流れになってきました。いまや開発経済学全般が大きなレベルから小さなレベルへ、と向かう流れになってきていますね。2年生の皆さんにはそれを知っていただけたらな。と思っています。しかし私自身の研究はどちらかといえば昔ながらの手法で、マクロ経済分析的なものが多くなっています。例えばフィリピンの貧困を下げるための政策はどのようなものがあるか、それが国全体で見たときにどのような効果をもたらしているのか、地域別で見た時にはどのような違いがあるのか、そういったことを計量経済学的手法も用いながら分析するというをしていますね。

『対等な関係で双方向的な熱い議論を!!!』

## Q. 大平先生の教育理念を教えてください

それが考えていて一番難しくてね（笑）うーん、考えたことがないなあというのが正直なところなんです。私が学生だったときから考えていたこととしては、大学という場では学生が主人公であるということです。いわゆる上から下への教育、つまりは教育者が上において学生がそれに従う。こういった構造は

学生時代から大嫌いでした。できるだけ対等な立場で、色々な議論をしていく。例えばゼミなんかは一種のコミュニティみたいなもので、先輩は知識を教え、後輩は新鮮な目線でいわば玄人的に思考が凝り固まってしまった先輩を刺激する、そういうことを積み重ねていく場だと思っています。私は上の代のゼミ生が卒業していてもずっとゼミにいて、経済学を勉強し続けている立場から物事がどう見えるかの意見を出していく。つまり意見を出し合い、その意見を相互交換するという意味では私も学生と対等な立場ですよ。こうした付き合い方をできるのがゼミ、つまりは少人数の授業だと思っています。例えば日吉のマクロの授業なんかは400人もいたら対等な立場で相互に議論することなんか不可能ですよ（笑）ゼミや三田の少人数の授業では、双方向的に意見を出し合うことを考えています。それが私の教育といえば教育ですね。みんなで学び合う場こそが大学だと思っています。ただ文字通り平等だと馴れ合いにもなってしまうので、時には教員の立場で「ちょっとそれ違うんじゃないか!？」などと言うことはありますね。そういった使い分けをうまくしていかなきゃなと感じています。まあ教育理念と言われてもね（笑）変に上の立場にいちやいけない。それをいつも心がけていますね。

『バレーボールに打ち込んだ学生時代!!そして、一冊の本に出会う・・・』

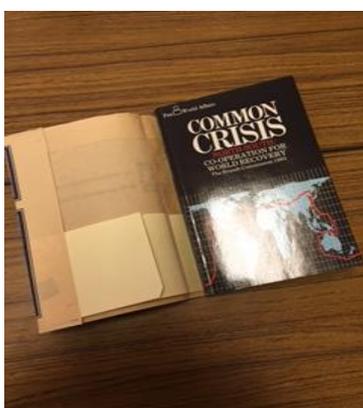
## Q. 大平先生の学生時代のお話を聞かせてください

高校も大学も同じで、実はバレーボールしかしてなかったね（笑）一日中とは言わないけれど、午後からはずっと（笑）午前は何をしていたかという、まあ本を読んでいましたね。今でいうと藤山記念館がある場所、あそこが昔は図書館だったんだけど、そこにいて、哲学とか、社会学とか、言語学とかを読んでいました。経済学は読まなかったね（笑）進路は、ポーンとしてたら就活に乗り遅れて院に行くことになってしまったね（笑）昔は就活の時期は5月とか6月くらいから始まってたんだけど、みんななんかやってんなあ?とか思っ。する話といたらバレーボールの話ばかりだったからね。本の話も就活の話もしないから、いつの間にか時間が過ぎてってしまった（笑）  
そうこうしてたら「大学院ってものがあるらしいぜ!」という話を友人から聞いた。それで大学4年の8月くらい、まあみんな企業からの内定が出始める頃

に大学院の試験を受けることを決めました。そのときが経済学を真面目に勉強し始めた最初の時でしたね。そのとき初めて勉強してみて、「面白いなあ」って思いましたね。

Q「数ある経済学の中から開発経済学を選んだきっかけはなんですか？」

それは大学1年のときに、ちょっと大学生らしいものを読んでみようと思いついて紀伊国屋の洋書売り場に行ってみたんですね。そこで、  
“Common Crisis”



という本を見つけた。この本の何が目についたかっていうと、この「ブラント」という人の名前。私はいわゆる帰国生ってやつで、西ドイツにいたんですね。その当時の西ドイツの首相がこのブラントだったんだけど、当時テレビに映っていた馴染み深い人が本の表紙にいるぞ！と思って、購入してしまった（笑）実はこの本は難しくて読めなかったんだけど、イントロのところを斜め読みだけした。中身は途上国とか、南北問題についての話で、いま世界全体は危機に瀕しているという話だった。途上国の方が危機に瀕しているように見えるけれど、途上国の危機によって、今や世界全体が危機に陥っている。これは共通の危機だ、と。わかりやすくいうとこういう問題なんですけど、私はこのとき、「ああ、途上国って問題があるんだ。」「貧困って世界全体を危機に陥れてるんだ」と感じて心を動かされて、そのために何かできないかな？と思いました。そしてこれが一貫して大学時代にやりたいことになった。それが今の自分にも繋がっているんですよ。さらに大学院の先生が、「開発金融」の本を読もう！と言い

出した。そのときに、「そういえば自分のやりたいことってこれだったな」と思い出して、研究するようになりました。

**『なにかひとつに打ち込めるものを持って!』**

### **Q 大平ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？**

それも考えたんですけど、難しいですねえ（笑）まあ、何か一つに打ち込めることを持ってってことですね。どこかのゼミを志望する以上、そのゼミの研究内容に興味を持つのは当たり前なんだから、勉強じゃなくて何か一つの打ち込めるものを持ってみる。その人らしさってのは何か一つ打ち込めるものを持ってないと出てこないの、自分の芯となるようなものを一つ持ってみる。これが重要なことだと思いますね。その点で、私はオタクが好きですね（笑）鉄道オタクとかね（笑）

**『なんでもいいから自分を表現する力を!』**

### **☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆**

そうですね。ゼミを志望する2年生に対しては、ゼミは議論をする場所だから、自分から情報発信をできるようにしておくこと！ですかね。それは必ずしも口頭で話をする必要はない。たとえシャイで喋れない人であっても、文章で自分を表現できればいい。逆でもいい。文章は書けなくても、喋ることによって自分を表現できればそれは構わない。なんでもいいから、自分のやりやすい、得意とするやり方で、ほかの人に伝えていく、そういう能力を磨いておいてください！それがメッセージかな。